

【戦略7】水産業のさらなる振興（その1）

豊かな海づくり大会を契機とした水産業のさらなる振興を図り、ブランド化や消費拡大による漁業者の所得向上を目指していく。

(1) 海面漁業 ～海面漁業のブランド化と庄内浜産水産物の消費拡大による漁業者の所得向上～

① 海面漁業生産基盤強化プロジェクト

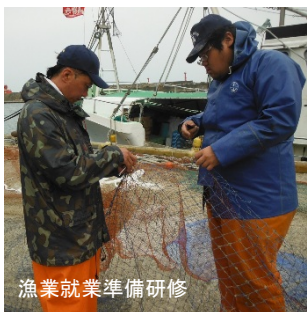
【目標指標】

目標指標	戦略策定時	現状値	H30 目標値	H32 目標値
漁業の新規就業者数 (4年間の累計)	51人 (H24～27)	37人 (H26～29)	15人	70人
トップランナー(漁業所得400万円以上の経営体)数	23経営体 (H27)	35経営体 (H28)	28経営体	43経営体
漁業試験調査船新船建造	25年経過 (H28)	基本設計完了 (H29)	着工	竣工 (H31)

【30年度の取組み】

○水産業の人材育成

- ・将来の進路として水産分野に興味を持ってもらうため、県内の中学生を対象に少年水産教室を開催し、86名の生徒が参加(7・8月)
- ・将来の漁業の担い手候補である加茂水産高校生に本県の漁業について理解を深めてもらうため、底びき網の体験漁業(7名・6月)、定置網の体験漁業(20名・10月)を実施
- ・新規漁業就業希望者3名に対し、漁業研修を実施(県事業1名、国事業2名)
- ・山形県水産業担い手育成プロジェクト会議を設置し、設立会議及び第1回会議を開催(10月)



漁業就業準備研修

○漁業のトップランナーの育成

- ・漁業者の生産性の維持・向上により所得向上を図るため、基幹漁業である底びき網漁船1隻の機関(エンジン)換装に係る事業計画を承認(9月)

○漁業試験調査船「最上丸」の新船建造など水産関係インフラの維持整備

- ・漁業試験調査船「最上丸」建造工事発注(5月)
- ・無線関連などの漁業インフラの維持整備(通年継続)

<今後の取組み予定>

○水産業の人材育成

- ・漁業研修制度の積極的なPR活動の実施(通年継続)
- ・漁業研修等の新規・独立就業支援の実施(通年継続)
- ・山形県水産業担い手育成プロジェクト会議 ワーキングチームの開催(3月)

○漁業のトップランナーの育成

- ・漁業のトップランナーの育成に向けた代船建造に対する支援(通年継続)



代船建造支援

○漁業試験調査船「最上丸」の新船建造など水産関係インフラの維持整備

- ・漁業者の所得向上につながる効果的・効率的な漁業に向けた調査研究を推進するための「最上丸」の新船建造と係留施設整備の推進(H31.9月)
- ・酒田漁業無線局の無線関連機器の維持整備の計画について検討(通年継続)

【評価と課題】

○水産業の人材育成

- ・新規就業動機付けから独立・定着までの各段階に応じた丁寧な支援が必要であり、また、この支援策の積極的な活用を促すためのPR活動が必要
- ・特に、動機付けの効果を高めるため、体験漁業に加えて、トップランナーとの交流会を開催するなど、新たな取組みの検討が必要
- ・水産高校卒業生の漁業への就業を促進するため、教育庁と水産部局が連携した検討が必要

○漁業のトップランナーの育成

- ・代船建造の支援制度の積極的な活用を促し、生産性の向上と漁業コストの低減を図っていくことが必要

【戦略7】水産業のさらなる振興（その2）

(1) 海面漁業 ～海面漁業のブランド化と庄内浜産水産物の消費拡大による漁業者の所得向上～

③ 県産水産物利用拡大プロジェクト

【目標指標】

目標指標	戦略策定時	現状値	H30 目標値	H32 目標値
県内内陸部における庄内浜産水産物の流通比率	10.5% (H25～H28の平均)	7.1% (H29)	13.0%	15.0%
低利用魚の平均単価	270円/kg (H27)	256円/kg (H29)	310円/kg	350円/kg

【30年度の取組み】

○県内における認知度の向上及び消費拡大

・「やまがた庄内浜の魚応援店」の募集を内陸全地区に拡大しPR活動を展開(全127店舗)
また、応援店と漁業者との交流会を開催(5/27～28)することで両者のマッチングを支援

・おいしい山形旬の魚キャンペーン(春:5/14～6/30、秋:9/14～11/30)及び庄内浜魚まつりin山形(10/6 開催:各企画イベント参加者累計約700名)を開催し、県内内陸部での効果的なプロモーションを実施

また、旬の魚に合わせ、県産ブランド米や県産酒と連携し、秋の旬の魚キャンペーンでは応援店スタンプラリーを併せて実施

・山形県漁協由良水産加工場での急速冷凍商品開発及び販路開拓への支援により、庄内浜産水産物の安定供給体制を構築(安定供給体制の構築に向け支援)(通年継続)

・庄内浜文化伝道師の育成研修会を開催(5/28)し、伝道師のレベルアップを図るとともに、料理教室(全25回予定)や「出張お魚教室」(10/2、他)での魚食普及活動を実施



応援店と漁業者の交流会



旬の魚キャンペーン



伝道師講座(料理教室)

・県水産試験場に県産水産物付加価値向上研究研修施設「おいしい魚加工支援ラボ」を整備(10/21)し、加工原材料の急速冷凍・解凍技術開発及び漁家(女性グループ等)による加工品開発・6次産業化の支援を開始

・庄内浜の魚と浜の食文化をテーマに、庄内地区で「食と漁の地域活性化シンポジウム」を開催(10/20)し、県内外に向けて庄内浜ブランドや消費拡大の取組みの情報を発信



急速冷凍のスルメイカ

<今後の取組み予定>

○県内における認知度の向上及び消費拡大

・魚食普及のための庄内浜文化伝道師による料理教室の継続により魚食普及を図るとともに、地域と連携して伝道師の活躍の場を広める取組みを推進。(通年継続)

○低利用魚を活用した水産加工品製造・販売の支援

・低利用魚を活用した水産加工品を製造・販売するための、漁家女性のグループ化による6次産業化への支援や販売力強化に向けた研修会の開催(1月予定)

・冷凍加工商品の開発及び販路開拓への支援による、庄内浜産水産物の安定供給体制の構築(安定供給体制の構築に向けた支援)(通年継続)

【評価と課題】

○旬の魚に米や地酒を組み合わせて、山形の美味しいものをPRすることで、庄内浜産水産物の認知度向上が図られたが、更なる消費拡大を図るため、継続した事業の推進が必要

○急速冷凍装置による冷凍商品は、流通関係者及び料理人から一定の評価を得ており、今後、冷凍加工品の早期実用化を目指すとともに、年間を通して応援店等が庄内浜の魚を活用できる体制の構築が必要